

# 皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30  
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭  
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内  
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



## IMAGINE ROTARY

イマジン  
ロータリー

### 第1608回例会 令和5年2月2日(木)

#### 【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。月初めには洪沢栄一の論語と算盤から抜粋して紹介しています。この段落をよく読むと、まさにロータリーの職業奉仕に関する考え方ではないかと思えます。



人はこの世に生まれた以上、必ずなんらかの目的がなくては叶わぬことだが、その目的とは果たして何事であるか。いかにして遂げ得べきか。これは人の面貌の異なるがごとく、各自意見を異にしているであろうが、恐らくは次の如く考う人もあるであろう。それは自己の長じたる手腕にせよ、技量にせよ、それを充分に發揮して力の限りを尽くし、もって君父に忠孝を致し、(今の言葉で言えば社会にという事だと思えます)あるいは社会を救済しようと心掛ける。しかし、それも漠然と心で思うだけでは、何にもならぬ。やはり、なんらかの形式に現しなくてはならぬので、ここにおのれの修め得たる才能に依頼して、各自の学問なり、技術なりを尽くすようにする。例えば、学者ならば学者としての本分を尽くし、宗教家ならば宗教家としての職責を全うし、政治家もその責任を明らかにし、軍人もその任務を果たすというように、各自にその能力の有らん限りを傾けて、これに心を入れる。・・・(自分の長所を生かしながら社会に貢献する事が一番大事だと)自己のことを賓(自分の事はおまけで社会のために尽くす)と心得ているので、余はこれをしも客観的的人生観とは名づくるのである。

しかるに、前陳のようなことは全く反対に、ただただ簡単に自分一人のことばかり考え、社会のことや他人のことなど考えないものもあるであろう。しかし、この人の考えのごとく社会を観察すれば、やはりそこに理窟がないでもない。すなわち、自己は自己のために生まれたものである。他人のためや社会のために、自己を犠牲にすることは怪しからぬではないか。自己のために生まれた自己なら、どこまでも自己のために計るがよいとの主張から、社会に起こる諸事件に対し、でき得る限り自己に利益になるようにばかりして行く。例えば、借金は自分のために自分がしたのだから、これは当然払うべき義務があるから払う。・・・しかし、この上他人を救うために、あるいは公共事業のために義

捐するというような責任は負わない。それは他人のため社会の為にはなるであろうが、自分のためにならぬからだとなし、何でも自己のために社会を經營させようとする。余はかくのごときものを名づけて主観的的人生観とは言うのである。

余は今これら二者の中、事実において如何と考うるに、もし後者の如き主義をもって押し通すときは、国家社会は自ずから粗野となり、鄙陋となり、終には救うべからざる衰頹になりはすまいか。それに反して前者のごとき主義で拡充してゆけば、国家社会は必ず理想的なものとなってゆくに相違ない。ゆえに余は客観的に与して、主観的をば排斥するのである。

洪沢栄一の言う客観的的人生観はロータリーの職業奉仕そのものです。ポール・ハリスがこの意見を取り入れてロータリーを作ったのではないかと私には思えます。

#### 【幹事報告】

#### 【理事役員会報告】

|    |    |   |          |        |
|----|----|---|----------|--------|
| 2月 | 2  | 木 | 通常例会     | 理事役員会  |
|    | 9  | 木 | 秩父RC合同例会 | 長生館    |
|    | 16 | 木 | 通常例会     | 会員卓話   |
|    | 18 | 土 | I M      | ホテル美やま |
|    | 23 | 木 | 休会       | 天皇誕生日  |
| 3月 | 2  | 木 | 通常例会     | 理事役員会  |
|    | 9  | 木 | 休会       |        |
|    | 16 | 木 | 通常例会     |        |
|    | 23 | 木 | 休会       |        |
|    | 30 | 木 | 親睦例会(夜間) |        |



#### 四つのテスト

高田 富康会員

2005年にロータリークラブに入会して今年で18年になります。いろいろとある中で、ロータリーの力はすごいと思います。

今までメークに行く事はありませんでしたが、以前より時間がありますので、これからいろんな所に行き、メークをして、地元のお酒を飲んだり楽しい事をしていきたいと思っています。18年は短かったかなという気がします。

# 月信 11月号より音読会



Chairman's Message

## 心を込めてロータリーのストーリーを共有しよう

「イマジン ロータリー」と言われても、何やら大変な、難しいことのように思えるかもしれません。しかし核となるのは本当にちょっとしたことで、個人的なものであることもあります。

ロータリーの会員は自分たちの奉仕活動を黙ってすべきだと考えられていたのは、そう昔のことではありません。その考えはよく分かります。謙虚さは美徳であり、私たちは謙虚であり続けるべきです。

しかし、ロータリーのストーリーを発信しないというのはもったいないことです。ロータリー・モメントを共有することにより、私たちは他の人にも寛大になり、ロータリーのインパクトを理解してもらう機会を与えることになります。

アメリカの活動家、マヤ・アンジェロウの含蓄深い名言が思い出されます。「あなたの言葉は忘れ去られることでしょ。あなたの行いは忘れ去られることでしょ。しかし、あなたが与えた感動は決して忘れ去られることがないのです」

それでは、どうすれば人々にロータリーの感動を与えられるでしょうか。一番良い方法は、ロータリー・モメントを共有することです。私たち一人一人がロータリー・モメントを体験しているはず。日常の日々の中で、何か偉大なことを成し遂げようという意志と出会う、というあの体験を。

それは初めて例会に出席した時だったかもしれません。そのような体験に気付くまで何年もかかるかもしれません。奉仕した相手の目に浮かぶ喜びを見た時かもしれません。あるいは、他の会員から何か心に響くストーリーを聞いた時のことかもしれません。

夫のニックと私はこの旅を共にしてきましたが、人々の人生に変化をもたらす皆さんの活動には胸を打たれます。今年度は、この旅を有意義なものにしてくれた景色やストーリーを皆さんと共有していくつもりです。

皆さんも自分なりの方法でそうしていただけたらと思っています。例会やソーシャルメディアで共有してもいいですし、知識豊富で意欲的な人なら、地元のメディアを通してイベントを宣伝するのもいいかもしれません。ストーリーをご友人に話すだけでも、影響は広がります。

ロータリーのメッセージと、よりよい世界を目指す夢を世界に広めてくれるアンバサダーが必要です。最高のアンバサダーはロータリーの会員です。より多くの人が私たちと連携し、入会し、会員であり続けてくれるでしょう。

今後数カ月以内にこのコラムはロータリーの会員の皆さんのコーナーになる予定です。ロータリーの多様性、公平さ、インクルージョンに関する個人的なストーリーをここで発信してもらうのです。ロータリーの未来のために多様性、公平さ、インクルージョンが大事だと分かってもらうには、体験談を発信してもらうべきですから。

何に取り組むにしても、ロータリーの世間での受け止められ方が、私たちの未来を形作ることになります。皆さんが共有してくれるストーリーがどれほど多くの人にインスピレーションを与えることになるか、今から楽しみです。

国際ロータリー 2022-23年度 RI会長  
ジェニファー E.ジョーンズ

出席率 28.6%